

うか、借りるかしなければならぬ。コーチにも給料を払わなければならぬ。自分のユニフォームや用具以外にもお金は必要なんだよ」と話してくれました。

「おまえたちの部活動は義務教育の一環、つまり、税金でまかなわれているから何の心配もなく競技に集中できるんだ。無理に練習をさせられていると感じるか、お金の心配をせず、部活に専念できることをありがたく思うか、じっくりと考えて、あとは自分で判断しなさい」と言いました。

わたしは部活ができるのは当たり前のことだと思っていました。知らないところであんなにさんのお金が使われていることに気がつきませんでした。スポーツができる楽しさよりも練習の厳しさに嫌気が差していました。スポーツがしたくてもできない人たちの話は、大変シヨツクな内容でした。練習が厳しいと言うなんて甘えだ、練習ができるのは幸せなんだと思えてきました。

わたしたちが放課後に当然のここのように
 行っている部活動ですが、父が教えてくれた
 ように税金が支ええてくれています。グラウ
 ンドも体育館もすべて税金のおかげです。当
 たり前のように使っている施設や用具ですが、
 父や母、多くの人たちの協力の結晶なのです。
 わたしたちは部活動をするとき、多くの人
 たちの協力があるおかげということ忘れて
 はなりません。税金を納めている人の中には、
 いろいろな事情で好きなスポーツをできない
 人々がいいます。自分がスポーツをできないの
 に、わたしたちのために税金を納めてくれる
 その気持ちに感謝をしなければいけません。
 わたしたちが大人になったとき納めた税
 金で次の世代の子どもたちがいろいろなスポ
 ーツを行い、体と心を鍛えます。次の世代の
 子どもたちが、部活動は厳しすぎるとか、練
 習させられていたりと思いがらスポーツをし
 ていると知ったらわたしたちは悲しく思うで
 しょう。

同じように厳しい練習を無理やりさせられ
 ているとわたしたちが感じながら部活動をし
 ていると税金を納めている大人が知ったら、
 どう思うでしょうか。自分のやりたいスポー
 ツもできないのに税金を払っている人は、納
 税という行為をばからしく感じてしまうかも
 しれません。
 納税は国民の義務の一つですが、納める人
 たちが気持ちよく納められるように、感謝の
 気持ちを込めてわたしたちは部活動を行うよ
 うにしなければならぬと思います。
 わたしたちが一生懸命部活動をする姿を見
 て、「払った税金が役になっているな」と思
 ってもらえるように頑張らないといけません
 わたしたちも「税金を納めてくれてありがと
 う」という感謝の気持ちで部活動に取り組
 むようにしなければなりません。
 税金を納めて良かったと思う気持ちと、納税
 してくれたことに対して感謝の気持ちが一
 体